

【研究会・活動】

研究会を 10 回開催（うち 4 回は、七曲市場、明光市場、和歌山市役所、和歌山市中央卸売市場にて現地ヒアリング調査を実施）。

金沢市「近江町市場」、彦根市「四番町スクエア」、明石市「魚の棚市場」、長崎市「新大工町市場」に現地視察。



「観光客の受け入れに対する和歌山県民の意識調査」終了報告

おもてなし研究会

主査 竹田 明弘

[和歌山大学観光学部 准教授]

本研究会は、昨年度まで実施されていたホスピタリティ研究会を引き継ぐ形で発足した。ホスピタリティ研究会では、和歌山県の観光がさらなる発展をとげるために、宿泊産業やアミューズメントだけでなく、地域住民の観光客の受入意識を高める事が必要であるという結論にいたった。

ところで、2008 年から 2017 年の和歌山県長期総合計画は、「未来に羽ばたく愛着ある郷土 元気な和歌山」をビジョンとして 4 つの活動目標をあげている。1. 和歌山県民は、郷土和歌山に深い愛着を持ち、元気にいきいきと暮らしています。2. 温暖な気候や豊かな自然、さらには癒しの力・安らぎの空間が住む人に満足感を与え、安全で安心できる和歌山で暮らしています。3. 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をはじめとする和歌山の優れた魅力が世界に向けて発信され、国内外から多くの人々が和歌山に訪れ、その素晴らしさを体験しています。4. 県民や県内産業は、古くから受け継がれてきた進取の気性を発揮して、これまで以上に多くの人々を和歌山に引きつれるとともに、世界を視野に入れて活躍しています。これをみると、地域住民が満足して暮らす街、地域外部から観光客などが多く訪れる街が両輪になっている。まさに、「住んでよし、訪れてよし」の街を目指したものといえよう。

そこで、本研究では、地域満足（住んでよし）と受入意識（訪れてよし）を同時に充足できるような地域政策とは何かについて提言することを目的として、住民の他者受入意識に影響を与える要因について調査した。

調査は質問票調査の手法を用いた。調査地域は、県庁所在地であり、和歌山城や紀三井寺など観光資源も豊富な和歌山市、温泉やリゾートなど県内最大の観光地である白浜地域、近年において観光への積極的な取り組みがみられる湯浅町の 3 地域とした。調査は当該地域に居住する住民に対しランダムに質問紙を配布し、後日郵送にて回収するという方法をとった。なお、質問紙は 1500 部配布され、回収は 508(33.9%)であった。調査項目としては、地域満足、近隣関係、地域に対するコミットメント、観光に対する期待や思い、受入

意識であった。

調査の結果から、受入意識に最も影響を与えるのは地域に対する愛情・全人格的なコミットメントであった。さらに、地域に対する愛情・全人格的なコミットメントに最も影響を与えるのは、地域のコミュニティが有効に機能しているかどうかであった。このように、地域のコミュニティをうまく機能させることが、地域に対するコミットメントを媒介し、地域満足にも受入意識にも大きな影響を与えることが明らかになった。地域のコミュニティが有効に機能し、住民共通の価値観が形成できるような仕掛け・仕組みの構築こそが地域観光の発展につながるのである。和歌山県として、これが実行できるような政策提言が期待される。

最後になるが、メンバーの献身的な努力により、一定の成果を達成することが出来た。本研究会に参加、協力いただいたメンバー各位に感謝申し上げます。

【メンバー】

(主査)竹田 明弘	和歌山大学観光学部准教授
竹林 明	和歌山大学観光学部教授
廣岡 裕一	和歌山大学観光学部教授
佐々木 壮太郎	和歌山大学観光学部准教授
竹林 浩志	和歌山大学観光学部准教授
山本 敦子	和歌山大学経済学部助教
則藤 正文	和歌山社会経済研究所研究部長
中平 匡俊	和歌山社会経済研究所主任研究員
畑 光穂	和歌山商工会議所企画・街づくり支援室リーダー
藤村 幸司	和歌山商工会議所企画・街づくり支援室主事

(注: メンバーの所属・肩書きについては平成 21 年度時点)

【執筆担当】

はじめに	……………(竹田)
第 1 章 地域のブランド価値向上と住民の受入意識	…(佐々木)
第 2 章 調査報告	……………(竹田)
第 3 章 地域格差および地域の分析と考察	……………(中平)
おわりに	……………(竹林)

【研究会・活動】

研究会を 6 回開催 (うち、プレ研究会 1 回)。

現地アンケート調査実施 (平成 21 年 11 月～12 月)。

